

◇ 巡検の記録 ◇

房 総 巡 検 (2 月 2 3 日 ~ 2 6 日)

何しろ初めての巡検ということで、皆不安と期待のまじった複雑な心境で準備をしていたが、9月の予定が12月、12月の予定が2月と2度も延期せざるを得なくなり浅井先生もさぞかしやきもきなされたことだろう。

2月末といっても、房総南部は商品であるところの花が咲き乱れる暖かさ。しかし、雨が降って寒いのと、行動が制約されたのとで、あまりお天気に恵まれたとは言い難かった。

我々は、先生の指示に従い、出発前に小テーマを分担して事前研究もして行った。房総中部と南部とで、自然的に又文化的に差異が認められるかどうか、というテーマを11人で地形地質、気候、陸水、農林水産業、宗教、観光、歴史などに分けて受け持ち、残りの4人は、房総で見落とすことのできない海岸段丘や沼サンゴ、ガス田、京葉工業地帯、清澄山、花卉栽培を分担して事前研究した。

こうして、事前研究をリュックにつめ、勇んで3泊4日の巡検へと出かけた我々であったが、机の上で調べたものと現実にあるものとのギャップにとまどうばかりで、改めて野外調査の難しさを痛感した次第である。

まず第1日めは、茂原で関東天然ガス株式会社と三井東圧化学株式会社の見学。会社の方々に丁寧に説明していただき、またスライドや工場内の施設などをよく見せていただいていたなかなか有意義であった。その後、第1日めの宿、清澄寺へと向った。

第2日目は、浅井先生の御趣味なのかどうか(?)5時半起床で、6時から正座してお経をきき、その後朝食までは“野外観察”。寺を出発してから、全員で鯛の浦や誕生寺(日蓮誕生の寺)を観光して、その後この巡検の大きなヤマである鴨川のため池調査へと向った。

前の晩分担しておいた様に、2人1組で地形図上に存在するたくさんのため池の調査をした。すなわち、ため池の回りにある碑や、近所の民家からの聞き取りなどから、各々のため池の成立年代や背景などを調べようというわけだ。藪をかきわけ手足に傷をたくさんつくった組、バスに乗り遅れ走って駅までもどった組、ヒッチハイクを決行した組などいろいろあったが、全員無事に集合場所にもどってきた。

第3日めは、各人が特に興味を持ったものを調査に行つてよい自由行動の日。民宿の聞き取り調査に行きコーヒー攻めにあつて胃の調子がおかしくなった組や、離れ島にサンゴを探しに行き見つからず、空腹のあまり民家の夏ミカンを盗んで食べたというあわれな組、漁村の調査に行き、ワカメのおみやげをかついできた組などさまざまであった。

第4日めは、当時4年生だった草山淳子さんに東京から出てきていただき、草山さんの卒論テーマだったビワ栽培について実際に富浦のビワ園の観察をしながら教えていただいた。その後、木更津の県立上総博物館を見学して、4日間の巡検の全行程を終えた。

綿密な計画に基づき、凄い量のことをこなした房総巡検で、4日間でヘトヘトになってしまったが、限られた日数であれだけ勉強ができたのもこの計画をたてて下さった浅井先生のお蔭であろう。巡検後、厳しそうで実はとても優しい浅井先生の株が、我クラス内で急上昇したことはここに書くまでもない。

初めての巡検で印象が強いという事もあるが、とにかく大学1年の最も心に残った楽しい思い出となった4日間だった。

(浅井先生指導 2年 高橋 圭子)

栃木巡検（9月5日～9月8日）

9月5日午前8時。夏休みの終止符を打つべく、私達15人はいわゆる巡検スタイルで上野駅ホームに集合した。斎藤先生の指導のもと那須野・鶏頂山・栗山村方面への3泊4日の巡検である。総合テーマは海拔高度の上昇に伴う営農類型の変化、平地林から山村までの生活様式の変化、農村景観の観察の3つであり、フィールドで新鮮に感じたことを大事にするということが方針となった。西那須野着。郷土資料館でスライドを見て、当時の那須野原の開発事業の一端を知る。開発の鍵となった那須疏水を確認しつつ千本松農場を抜け、日の出開拓村にやってきた。整然とした広い耕地、一面のトウモロコシ畑、養豚業が印象的である。ここでは農協の方から次のようなお話を伺った。今日の大型機械を導入した酪農は高収入をあげることができて後継者も定着してきたこと。しかし、それまでには苦節30年の歩みがあったこと。特に先代が飲まず食わず、月のあかりで開墾したことを知ってほしいということである。この日は温泉町塩原に泊る。

9月6日。まずは塩原での地図作りである。あらかじめ与えられていた概略図に班別で温泉集落の土地利用景観の調査結果を記入。見て即記入する癖をつけることが大事とのご指導であった。塩原を出て鶏頂山へ。一面に広がる野菜畑——キャベツ、ニンジン、ダイコン、イチゴ、ハクサイ等。ここでも班別行動をとり聞き取りを含めた土地利用の調査を行なう。また地図作りである。夕食後一日の調査結果を全員でまとめ地図を完成。鶏明荘に泊る。

9月7日。この日は栗山村で、山村での生活把握に焦点が置かれた。栗山村役場で観光課長からお話を伺い、山村における諸問題を認識する。午後は平家の落人村という伝説のある野門^{のかど}で、集落景観と土地利用の観察を行う。茅葺の屋根が村全体の雰囲気にしっくり合っている。しかし、こんな山奥の村でも観光化の波は防ぎきれないとみえて、民宿としての近代的な建物が茅葺と対照的に共存している。畑には、果菜類が自給用に植えられていたが、中世の作物という説明のあった荏胡麻^{えごま}が記憶に新しい。野門で民宿に泊る。民宿のご主人は熟練した猟師で、夕食後に豊富な経験をもとに私達に実に興味深い話をしてくださった。かつてNHKの取材に応じたとのことで話し上手であった。イワナ、さんしょう魚のとり方、キノコ狩り、山鳥・野うさぎ・熊・てん・鹿・ムササビ等の話。中でもさんしょう魚の活動が湿度と密接な関係をもっていること、その生命力の強さ、薫製のさし方の話や、人